

けいさい 選手 諏訪園工業メッセ閉幕
論 田中均氏・姜尚中氏対談
スポーツ 日本シリーズ開幕 タカラ勝
なでしこ AC長野 0-2 千葉
社説 巨大台風と治水

2面 東 信 災害ごみの分別「大変」
4面 北 信 陸自が避難者用に風呂
10・11面 中 信 日韓親善でおまつり
17面 南 信 リニア盛り土を考える
5面 地域ニュース28・29面

2019年(令和元年)
10月20日 日曜日
台風19号 生活情報 31・地域面

台風19号 関連記事
生活再建 住まい最優先 3面
被災者へメッセージ 25面
被災者の声 30面
亡くなった3人のぶ 32面
社殿修復祝い当日被災 33面
2・13・31面にも



台風19号の大雨による千曲川などの氾濫後、初めて週末の19日、長野市などの被災地には県内外から大勢のボランティアがあり、家の片付けなどを手伝った。庭を埋めた泥はぶ厚く、水分を含んだ重さは重い。低気圧の影響で強い雨が降り、一時は長野市や上田市などに洪水報も出する中、貴重な人手を得て被災者も元気付かれていた。

泥まみれになつても

中央道東京方面 通行止め解除

飯山線運休区間あすから代替バス

中日本高速道路は19日、台風19号の影響で12日から続いた中央道で県内と首都圏を結ぶ高速バス路線は20日から通常運行に戻る見込みを对象にバスで代替輸送

北陸新幹線ダイヤ全面復旧越年か

「できることある」信州へ



(森さん提供)

西日本豪雨でも支援 大阪の41歳男性

「参加を」SNSで発信

西日本豪雨で泥まみれの姿を見た時に「想像以上の被害」と思って参加した。同市穂保では、アウトドア用品「モンベル」(本社・大阪市)社員らでつくる「アウトドア義援隊」の10人も民家が倒壊した。協会OB長野市長田村出身の会員高橋瑞さん(25)は名古屋市では泥だらけの作業着姿で、「少しでも力になりたいと思って参加した」と話した。

この日は県社会福祉協議会が把握しているだけでも、千曲川流域の5市町で1879人が参加した。千曲川の堤防が決壊した長野市長治地区。NPO法人国際ボランティア学生協会(本部・東京都)に所属する関西、首都圏などの学生約70人が活動した。協会OB長野市長田村出身の会員高橋瑞さん(25)は名古屋市では泥だらけの作業着姿で、「少しでも泥まみれの姿で泥を運び出した。元光輝さん(23)は友人で泥まみれの姿で泥を運び出した。

16日から数日間は近くにあ
た」と話した。

ボランティア続々 雨の中活躍

西日本豪雨でも支援 大阪の41歳男性

「比べるもんではないけど真備と同じくらい大変だね」。19日、長野市赤沼のりんご農家宅に、大阪府箕面市の自営業・森源太さん(41)の姿があった。昨年夏、西日本豪雨で大きな被害が出た岡山県倉敷市真備町などで積み重ねた災害ボランティア経験を踏まえ、雨の中を黙々と泥かきを続けていた。私は、休みを使って西日本豪雨災害のボランティアに加わり、訪ねた真備町で森さんと出会った。森さんは仕事の傍ら地元NPOと協力し、ボランティアのチームリーダーをしていました。信州から来たと話すと驚いて、「遠くからようなっていったか。本当にあり難い」と話した。森さんは「ボ

長野市松代地区では、山梨県甲斐市坂下嘉和さん(72)が「1軒の片付けが10人ほどで2日かかるといい、少しだけでも多くの人に参加してほしい」と話した。



1873年(明治6年)創刊
発行所 信濃毎日新聞社
長野本社 長野市中央 〒390-8546
電話 (026) 657番地
受付 32-3000編集 326-3111
販売 32-3310広告 326-3333
松本本社 松本市中央 〒390-21200
電話 (0263) 2丁目2番2号
代表 32-2830
報道 32-2850
販売 32-2850 広告 32-2860
©信濃毎日新聞社2019年



29面に詳しい天気情報

簡易的で方法で処理量回復

汚水 長野の「クリーンピア」

長野市赤沼の下水道終末処理場「クリーンピア千曲」は19日、国が非常時に認める塩素消毒のみの「簡易処理」ながら、汚水の1日の平均流入量5万立方㍍を処理する能力までは回復した。ただ簡易処理は、浄化が十分でない水を千曲川に放流する暫定処置で環境に負荷がかかる。県生活排水課は処理区域内の住民に、日常生活に支障がない程度の節水などを引き続き呼び掛けている。

クリーンピアは長野市の一部、須坂市、上高井郡小布施町、高山村の一部の13万人余の汚水を処理している。被災前は流入する汚水1日平均5万立方㍍に対し、最大で

1日当たり8万立方㍍を処理する能力があり、未処理でたまってしまう汚水はなかつた。たまつてしまふ汚水はなかつた。

簡易処理は復旧作業を始めた15日から開始。処理能力は同5万立方㍍まで回復したが、被災後に処理を停止した間にたまつた汚水を処理し終えるには時間がかかりそうだ。

さらに雨が降れば雨水が流入し、処理能力が再び低下する可能性もある。同課は、風呂の残り湯を洗濯にも使うことや洗剤を使いすぎないこと、マヨネーズやドレッシングなどの油類、酒類を台所で流さないーといった配慮を住民に呼び掛けている。

災害ごみ数百万トン処理2年以上

全国予測

台風19号の被災地では、上陸から1週間となつた19日も泥をかぶった家財道具や建材などの「災害ごみ」が増え続

水範囲などを基に、昨年の西日本豪雨の約190万トンを上回る数百万トン発生すると予測。水害としては異例の規模

で、処理完了までに2年以上かかる見込みだ。浸水で使えた

ない焼却場も出ており、専門家は自治体をまたいだ広域処理が解消の鍵になると指摘する。

総務省消防庁によると、19

日午後0時45分時点

で住宅約

400棟が全半壊し、16都県

で約2万4千棟が床上浸水し

た。環境省は1棟につき全壊

で110トナ

、床上浸水で4・

6トナの災害ごみが出ると推定。片付けの本格化に伴い電化製品や家屋の建材など多様なごみが一気に出てくる」(担当者)とみる。

ごみは自治体が指定する仮置き場に運ばれて分別された後、焼却や埋め立て処分される。環境省は被災地に職員を派遣し、仮置き場の設置を支援。しかし持ち込みが殺到し既に満杯になつたり、分別されず放置されたりしている場所もあるという。

被災地全体の詳しい状況は明らかになつていないが、宮城県角田市の谷津睦夫副市長は19日の取材に、市内で最大1・8万トンの災害ごみが想定され「処理には2~3年かかる可能性がある」と話した。

ごみ処理には自衛隊員約2千人も参加。連日、多くのご

みを現場から運び出している。

2016年の熊本地震では、益城町が発災翌日に開設した約1・2㌶の仮置き場が1週間で満杯になつた。2千

万㌧超のごみが出た東日本大震災でも、土地不足のため高く積み上げられたがれきの山で火災が続発。悪臭や虫の発生なども問題になり、市民生

活に悪影響を与えた。

環境省によると、発生が懸念されている南海トラフ巨大

地震では最大約3・2億㌧、首都直下地震では最大約1・1億㌧の災害ごみが出ると予想されており、国は自治体間でごみの受け入れに関する協定を結ぶよう求めている。